

琵琶湖だより

写真「鳥丸半島の鳥シリーズ」
カムリカイツブリ



ミズゴケ湿地の珪藻を調べる

～はしかけ「たんさいぼうの会」の研究～

滋賀県には多くのミズゴケ湿地があります。ミズゴケは、貧栄養な湿地状の場所で優占し、高層湿原の植生の主体となっています。高層湿原とは、植物遺骸が十分に分解されず堆積して形成されて周囲よりも高くなって、雨水のみで維持されている貧栄養な湿原で、寒冷地に多くあります。滋賀県にも、部分的に高層化している湿原がいくつかあり、そのような高層湿原や湧水湿地にミズゴケが生えているところがあります。

こうしたミズゴケ湿地には、「氷河期の遺存種」とされる種を含むさまざまな貴重な生物が生息しています。しかし、たいていは昆虫と植物に注目が集まり、それより小さな顕微鏡的サイズの生物はほとんど調べられていません。琵琶湖博物館はしかけのグループ「たんさいぼうの会」では、そのような小さな生物の1つである珪藻（ケイソウ）の調査を進めています。

これまでに、県内の代表的なミズゴケ湿地である小女郎ヶ池、八雲ヶ原湿原、山門湿原、山室湿原、油日湿原などを調査してきました。現在までに、小女郎ヶ池からは41種、八雲ヶ原湿原からは51種、山門湿原からは130種の珪藻を見出し、それぞれ成果を論文にまとめてきました。この種数は、普通の河川や湖沼などから見いだされる珪藻に比べて決して多くはありません。ミズゴケ湿地の水質は酸性で電解質・栄養塩に乏しいために、生息できる種に限られるからです。しかし出現種の内容を見ると、特に小女郎ヶ池と八雲ヶ原湿原ではほとんどが河川・湖沼では見られない種で、ミズゴケ湿地に独特の種多様性を有

していると言えます。また、寒冷地に特徴的とされる種が出てくることは、昆虫や植物と共通しています。さらに、琵琶湖博物館および著者自身が集めてきた膨大な文献をあたってもお同定ができない種があります。こうした種は新種の可能性が大きいので、現在、さらに詳細な調査を進めています。

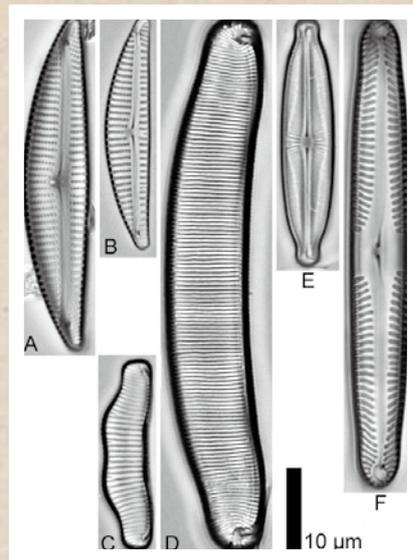
私たちはこれから、未発表の山室湿原と油日湿原の珪藻について論文にまとめるとともに、湖南から甲賀地域に点在する湧水性ミズゴケ湿地の珪藻も調べていきます。たんさいぼうの会の今後の活躍に乞うご期待！

資料提供：たんさいぼうの会

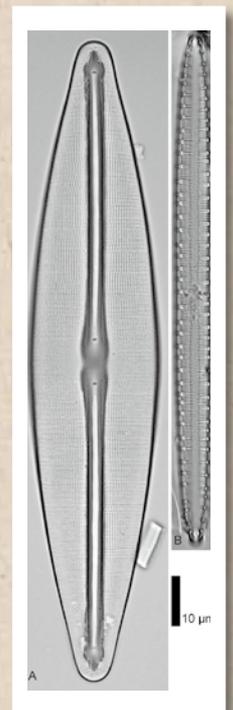
専門学芸員 大塚 泰介（たんさいぼうの会 影の会長）



山門湿原を調査する面々



山門湿原の寒地性珪藻



新種？

滋賀の食事文化研究会

滋賀は、琵琶湖の魚貝、近江米、野菜、豆などを使った個性あふれる食文化が作られてきました。ふなずし、漬物などの発酵食も豊かです。湖魚のなれずし、湖魚佃煮、アメノイオご飯、日野菜漬、丁稚羊羹は、滋賀の食文化財に選ばれています。

滋賀の食文化研究会は、こうした滋賀の食文化に関心を持つ人が食文化の特徴を明らかにし、伝承しながら新しい食事文化を創造していくことを目的に、滋賀大学の堀越昌子先生が中心となって1991年3月に発足しました。

研究会では、県内各地に出向いて伝統料理の調査をしたり、料理講習会や研究会を開催しています。これらの活動の成果は、毎年、会の「年報」としてまとめられ、その集大成として滋賀の伝統的な料理のレシピ集である『作ってみよう・滋賀の味Ⅰ・Ⅱ』（滋賀の食文化研究会著、サンライズ出版刊）が出版されています。

近年では、栗東市の学校給食の完全ごはん化を成し遂げた方々や県の「うれしがおいしが」を支える「こだわり滋賀ネットワーク」のメンバーも加わり、滋賀の食事文化のよさを伝えていく活動も確実に広がっています。

発足20周年を記念して、今年（2010年）の3月1日から4月7日に琵琶湖博物館でギャラリー展示「食事博—未来につなごう近江の食とくらし—」を行います。興味のある方はぜひご覧いただき、意欲のある方々とこれから一緒に活動できることを期待しています。

（主任学芸員 中藤容子）



写真

- ① ② 近江昔くらし倶楽部と共に生活実験工房にて季節の食材を使った伝統料理づくり
- ③ 活動成果をまとめた出版物

2010年度 はしかけ発表会

日時：2011年2月27日(日) 13:30~16:30 申込不要

会場：博物館セミナー室など



はしかけ交流会で、琵琶マスター“琵琶、グットだぜ!”の説明をする「たんさいほうの会」の皆さん

「はしかけ」とは、琵琶湖博物館を利用して、地域の人々が自主的な活動を行う制度です。「はしかけグループ」の多様な魅力的な活動を、パネル展示や体験プログラムで紹介します。どうぞ、お気軽にご参加ください。

※同日には、はしかけ登録講座も開催します。申し込みは不要です。登録時にボランティア保険加入料420円が必要です。年齢制限はありませんが、18歳未満の方が登録する場合には保護者の同意が必要です。

【時間】10:00~11:30 【会場】博物館セミナー室

今年、雪の重みで船が転覆したり、道路が閉鎖となり雪の中で長時間、車に閉じこめられたり、各地での大雪のニュースが飛び込んできます。地球温暖化とは、単に暖かくなるだけでなく、気象変動の幅が大きくなることで、極端な寒波などもその影響ではないかとされています。地球温暖化の影響が身近に近づいている気がします。

編集後記

◆巻頭写真の説明

カンムリカイツブリは、県の鳥カイツブリの仲間です。カイツブリよりも大きく、首が長く白っぽく見えるのが特徴です。夏と冬で羽の色が変わり、表の写真の鳥は、頭に飾り羽のある夏羽の色をしています。もともとは冬鳥ですが、一部の鳥が一年中琵琶湖に残り、子育てをしています。草津市の赤野井湾も、カンムリカイツブリの繁殖場所の一つとなっています。

鳥の目 魚の目 クイズ

「カンムリカイツブリについて」

Q 下の二つの写真はどちらもカンムリカイツブリです。色のちがう鳥はそれぞれなんでしょう？

- ① オスとメス
- ② 夏羽と冬羽
- ③ 成鳥とひな

答えは、紙面のどこかにあります。

